

1637

Tulip Mania — The First Speculative Bubble in History

チューリップ・バブル

人類最初の投機バブル

球根1つが家1軒分。「今回は違う」という確信が崩壊する構造は、400年後の今も変わっていない。

投資と思考の書齋

<https://anni-memo.github.io/investment-library/>

WHAT HAPPENED

何が起きたか

1630年代のオランダ。チューリップは16世紀後半にオスマン帝国から伝わり、オランダの富裕層の間でステータスシンボルとなっていた。

特に珍しい品種——炎のような模様が入る「ブレイク」した球根——に異常な高値がついた。1636年末から1637年初にかけて、球根の価格は数週間で数倍に跳ね上がった。

最も有名な品種「センペル・アウグストゥス」の球根1つが、アムステルダム運河沿いの家1軒分（約10,000ギルダー）に達したと伝えられる。熟練職人の年収が約300ギルダーの時代だ。

1637年2月3日、ハーレムの定例オークションで、誰も買い手がつかなかった。それが引き金となり、価格は数日で90%以上暴落した。

WHY IT HAPPENED

なぜ起きたか

バブルの発生には複数の条件が重なった。

- 供給の制約 — 珍しい模様の球根は突然変異（実はウイルス感染）によるもので、意図的に増やせなかった
- 先物契約の普及 — 球根が土の中にある冬季に、翌春の受け渡しを約束する「先物契約」が広まった。実物を見ずに取引が回転した
- 群集心理 — 「隣人が球根で儲けた」という話が広がり、普段は投機に関わらない層まで参入した
- 経済的背景 — オランダ黄金時代の好景気。余剰資金が投機先を求めていた

バブルの本質は「資産の価格がファンダメンタルズから乖離し、売却益の期待だけで価格が維持される状態」だ。買い手は球根を植えたいのではなく、より高く売りたいだけだった。

注意すべき点がある。近年の経済史研究では、チューリップ・バブルの規模と影響は従来の通説ほど大きくなかったという見方が有力になっている。被害は主にプロの球根取引業者に限定され、オランダ経済全体への影響は限定的だったとする研究もある。

WHAT CHANGED

何が変わったか

投機と実体価値の乖離が、初めて大規模に可視化された。

球根の「使用価値」（庭に植えて花を楽しむ）と「交換価値」（市場で売却して利益を得る）の間に、巨大な溝が開いた。この溝が突然閉じるとき、それがバブルの崩壊だ。

チューリップ・バブルの崩壊後、オランダ当局は先物契約を一部無効とする措置を取った。しかし、体系的な市場規制にはつながらなかった。投機の規制は、常に事後的で不完全であるという歴史的模式がここに始まる。

1841年にチャールズ・マッケイが『群衆の狂気と幻想』でチューリップ・バブルを詳述し、バブル研究の古典となった。「歴史は繰り返さないが、韻を踏む」ことを示す最も有名な事例として定着した。

LEGACY

今に残っているもの

チューリップ・バブルの構造は、以後のすべてのバブルに繰り返し現れている。

- 1720年の南海泡沫事件（イギリス）
- 1929年のウォール街大暴落
- 1990年の日本のバブル崩壊
- 2000年のドットコム・バブル
- 2008年のサブプライム危機
- 2021年の暗号資産・ミーム株の急騰と急落

すべてのバブルに共通する要素がある。新しい資産クラスへの熱狂、レバレッジの拡大、「今回は違う」という確信、そして突然の崩壊。

「チューリップ・バブル」という言葉自体が、投機的過熱を表す世界共通の比喩として現在も使われている。

FOR INVESTORS

投資家にとっての意味

- 資産の価格が「使用価値」や「収益力」から大きく乖離している場合、それはバブルの兆候かもしれない
- 「みんなが買っているから」は投資の根拠にならない。群集心理は最も危険なバイアスだ
- レバレッジ（借金しての投資）がバブルを加速し、崩壊時の被害を拡大する。この構造は400年間変わっていない
- バブルは事前に確実に見分けられない。だからこそ、分散投資と「失っても生活に影響しない範囲」での投資が重要になる



「市場は、あなたが支払能力を維持できる期間より長く、不合理でいられる」——ジョン・メイナード・ケインズ（帰属）

KEY TERMS

関連用語

チューリップ狂時代 (Tulipmania)

1634-1637年のオランダにおけるチューリップ球根の投機的過熱。人類最初の記録された投機バブル。

球根先物

まだ土の中にある球根の将来の受け渡しを約束する契約。現物なしに取引が回転する仕組み。

群集心理

多数の人が同じ行動を取ることで、個人の判断が集団の動きに引きずられる心理現象。バブルの主要な推進力。

バブル

資産価格がファンダメンタルズ（本源的価値）から大幅に乖離して上昇し、最終的に急落する現象。

パニック売り

市場参加者が恐怖に駆られて一斉に売却に走る現象。バブル崩壊時に価格の暴落を加速させる。

投資と思考の書齋

<https://anni-memo.github.io/investment-library/>

投資は自己責任です。このサイトの内容は情報提供を目的とし、投資助言ではありません。